

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100109		
法人名	有限会社 オオタキコーポレーション		
事業所名	グループホーム 夢楽園		
所在地	岡山県岡山市南区福島3丁目5-15		
自己評価作成日	平成 26年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=3390100109-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 26年 8 月 18 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所基本理念にもある様に、明るく家庭的な雰囲気を大切に、職員、入居者の個性を大切に出来る生活を目指しています。グループホームに入所しても諦める事のない、楽しい暮らしを送っていただけるように、ひとりひとりの出来る事好きな事に注目して関わっています。また、地域の方や近所の方にもグループホームを知っていただくために、行事や運営推進会議の機会には参加して頂き、交流をはかっています。それにより災害時などの協力体制、地域との連携について定期的に話し合い、いざという時に備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の奥に位置し、玄関までのスロープには季節の花が植えられ、目にも楽しい。菜園には野菜が植えられており、利用者と一緒にトマトを収穫する最中についつつまみ食いをしてしまうこともあるとのこと。事業所ではできるだけ利用者が我慢しない生活が送れるよう、本人本位の対応を心がけている。リビングでは庭で摘んできた草花についておしゃべりをしたり、菜園で採れた野菜の下ごしらえを手伝ったりするなど、何気ない日常生活が営まれている。その横に寄り添っている職員の丁寧な言葉づかいやゆっくりとした声かけに利用者への尊重と配慮が感じられた。居室前の表札、食事エプロン、ベッド柵の布カバーなど職員のハンドメイドで、温かみがある。地域との連携も強くなっており、継続的なボランティア、防災面での協力体制等、町内会長をはじめ地域の人達が事業所を親身になって支え、力強い応援団となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中での生活の継続が大切である事を意識し、理念がケアに反映されているか振り返りができるように、スタッフルームと玄関に掲げ自己認識してチームで共有している。	理念を念頭に、毎日イキイキと仕事をしているかどうか、日頃から職員に確認している。利用者の支援に迷った時は、理念に戻り、検討するようにしている。カンファレンスで理念についての振り返りの機会を持ち、職員で話し合いを実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園や小学校の行事を慰問交流している。近所の方から花や野菜を頂いたり、園庭の花を見に来られたり、行き来により顔なじみの関係が出来ている。	毎年事業所主催の夏祭りを実施し、近隣住人を招待している。お祭り日には町内の方が踊りの指導に来てくれる。また、今年は浴衣やお化粧など楽しい企画があり、お祭りの前から利用者、職員共に盛り上がっている。継続して訪問してくれるボランティア団体も多く、利用者は心待ちにしている。保育園、学区の小中学校とも交流を続けている。防災面での協力体制も確立しており、地域との関係は非常に友好的なものとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段より地域のボランティアの受け入れやご近所との関わりの中で、ホームの様子や認知症の方の支援の方法について伝えることが出来る機会が増えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域に、ホームの取り組みなどについて理解していただけるよう、一方的でなく意見交換が出来るよう進めている。	町内会長をはじめ地域住民、家族の参加が多い。初めの頃は事業所に来ることに遠慮があるように感じられたが、今では親身になって事業所のことを考えてくれ、こうしてみたら・・と積極的に意見やアイデアを出してくれる関係となっている。出てきた意見は真摯に受け止め、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に不明点などを訊ねたり、窓口手続きの際には運営推進会議の案内をさせてもらっている。	質問がある時には岡山市担当課に連絡をしている。その際には運営推進会議参加の依頼や開催前に案内状を送付しているが、なかなか参加に繋がっていない。できれば事業所の状況を見てもらいたいと考えている。地域包括支援センターとは交流の際、情報交換を行っている。	

6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケアの中でも、身体拘束につながりかねないと感じる場面があれば、その都度職員で話し合い、職員個々の意識の向上につながるよう努めている。	毎月1回、そのときのテーマに挙げて話し合ったり、勉強会を実施したりしている。利用者への接し方が身体拘束に当たるのではないかと考えられる場合は、管理者がその都度、具体的に職員に説明している。玄関の施錠はしておらず、利用者に危険がないよう職員による見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで具体的な事例や防止策について検討して、理解の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている利用者がおられるため、機会があれば職員に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧に説明をするように心がけている。料金、リスク面や看取りへの対応についても納得を得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の思いを遠慮なく相談して頂けるような雰囲気づくりを心がけて、提案されたご意見はカンファレンスなどで話し合い反映させている。	家族の面会が多いため、その際に要望を聞いている。リハビリをして欲しいとか、好きな物を買いに連れて行って欲しいなどの要望がある。利用者に無理のない範囲で、安全に留意しながら少しずつ応えていっている。家族同士が交流できるよう、お花見などのイベント時に顔合わせの機会を作っている。県外の家族には電話や手紙で日頃の様子を伝え、思いや要望なども聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見をあまり言わない職員には配慮し、こちらから機会を作り問いかけるようにしている。月に1度のカンファレンスでは職員の要望や意見を聞くようにしている。	年1回、管理者が面談を行い、働きやすさや働きにくさ、会社への思い、最近の様子などをじっくり聞いている。また、日頃から職員のことを聞くように心掛けている。支援に関することはカンファレンスにて意見を出し合い、取り入れている。	

12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や個々の努力や成果について認め、悩みやストレスの要因の把握に努めている。長所を発揮出来、向上心を持てるように配慮している。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や立場に応じてスキルアップのため事業所内外の研修を提供して受講を勧めている。研修報告書で研修内容を共有できるようにしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームの訪問や交流の中で、自ホームの振り返り、見直しに繋がっている。外部研修で同業者との交流を通して、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態や、本人の思いや困っていることを把握し、安心して受け入れて頂けるような関係づくりに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なこと、これまでの経緯やご家族の求められているものを理解し、安心感を得られるような支援を心がけている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況を確認してホームとして出来る改善に向けた支援の提案をしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、楽しい時、寂しい時、不安な時など共感し、感謝の気持ちや励ましあったり、共に支えあえる関係づくりを心がけている。		

19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有して、ご本人を支えるために、ご家族の方と同じ思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでにご本人を支えてくれた知人・友人・地域の方達と継続的に交流が出来るよう、手紙や電話での連絡を取り持つなどの支援をしている。	知人の訪問や電話の取り次ぎなど、馴染みのかたとのつきあいが続くように支援している。手紙を書く手伝いをしており、1枚は必ず年賀状を出している。ひいきの眼鏡屋でメガネを作ったり、アイスクリームと一緒に買いに行ったりするなどの個別支援もしている。家族の協力で外食、墓参り、一時帰宅をしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士楽しく過ごせるよう関係性について配慮し、食事やお茶の時間には職員も一緒にテーブルにつき、多くの会話をもつようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要となった場合でも、ケアプラン、支援状況等をお伝えするとともに情報交換を行い、これまでの暮らしの持続性が損なわれないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、声掛けや言葉や表情などから、その真意を推し測ったりそれとなく確認するようにしている。また、ご家族の方より助言や情報もいただきながらご本人本位に検討している。	利用者が今までの生活、我慢しない生活ができるように、思っていること、やりたいことを出来るだけ把握するように努めている。利用者からは帰宅したい、外出したいという声が多く、職員は情報を共有し、家族に伝えたり、希望が叶うように話し合いを実施し、出来ることは何か、利用者本位に考えている。	利用者の要望もあり、積極的に外へ出かける機会を増やしたいと伺いました。日常生活の中のちょっとした外出、買物、ドライブなども計画したいとのこと。きっと利用者は喜ばれることでしょう。もう一歩進めて、マンツーマン対応での誕生日外出なども検討してみたいかかかでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今までの暮らしぶりや、地域の中でどのような関わりをしてきたのか等把握に努め、自分らしく安心して生活して頂けるように努めている。		

25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人やご家族には、日ごろのかかわりを通して思いや意見を聞き、反映させるようにしている。その方の有する力を見極め、出来ない事より出来る事に注目して自信に繋がるような支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の視点に立って、その人らしく暮らしていただくために、ご本人やご家族の思いや、要望をカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。	各ユニットの職員がプランを作成し、担当者を中心に3ヶ月に1回モニタリングを実施している。利用者が困っている事は何か、家族の希望は何か、しっかり把握しプラン作成に活かしている。カンファレンスだけでなく、日頃の業務の中で細かい気づきなど職員で話し合っている。必要に応じて医師の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意して、食事・水分量・排泄等身体的状況や、日々の暮らしの様子を記載して、気づきや状況変化を把握している。記録を活かし介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて、医療機関への受診、通院、送迎等必要な支援は柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心した地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議で地域包括支援センターの職員の方や、町内会長などと支援に関する情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。必要に応じて受診の付き添いをして、普段の様子や変化を伝えるようにしている。協力医療機関ともいつでも連絡、相談をさせて頂きながら適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医を選ぶことができる。協力医の訪問が週3回あり、24時間対応で電話等で相談ができるため安心感がある。事業所には看護師が常駐しており、日常の健康管理や医師とのパイプ役となっている。歯科医の協力で、口腔ケアの勉強会、入れ歯のメンテナンスの実施もある。	

31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者の身体状況の変化を早期に発見し、ただちに看護職に報告・相談し、適切な医療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が定期的に見舞うようにしている。また、家族とも病状等の情報交換をしながら、入院によるダメージを最小限にし、速やかな退院支援に結び付けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人や家族の意向をふまえて、医師、職員が連携を取りながら、安心出来る希望に沿った最期を迎えられるように取り組んでいる。職員もカンファレンスで随時方向性を確認しながら、支援を行っている。	事業所としてできる看取り支援について医師にも協力してもらい、家族に説明している。今年度、医師と家族の協力を得て看取り支援を実施した。経験のない職員が多かったが、事前に勉強会を実施し、真摯に利用者向き合い、心をひとつにしてケアを実践することができた。家族の気持ちが揺れる事もあるので、その都度確認しながら対応している。必要に応じて病院の紹介、特別養護老人ホームへの申し込みなどを勧める場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の緊急時対応や、事故発生時の対応について、看護職の指導のもと、慌てず適切な行動がとれるように勉強会を実施している。夜間の対応、連絡方法についてもマニュアル化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所だけでなく、地域の方や近所の方にも防災訓練に参加して頂き、いざという時に協力が得られるように実践的に取り組んでいる。また、ご意見や改善点などをお聞きし、次の訓練に活かしている。	夜間を想定した防災訓練を年2回実施している。消防署から厳しい助言もあったが、今後より実際に即した訓練が必要だと感じた。今後は水害で2階へ避難する訓練の他に、小さな訓練も繰り返し取り組んでいく予定となっている。地域住民の方は非常に協力的で、利用者の安全確保の為の意見を多く出してくれる。	備蓄品のリストはあるが、収納場所がバラバラなので、すぐ取り出せるか、職員が場所をきちんと把握しているか、不安があるとのことでした。賞味期限の確認なども含めて整理をし、職員への周知徹底を図ることができるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重し、さりげないケアを心がけている。個人情報等の守秘義務についても勉強会の機会等で意識の統一を図る様になっている。	利用者に対しては尊敬の念を持ち、ていねいな言葉遣いをするように気をつけている。職員都合の強引で一方的な接し方にならないように十分に注意し、忙しい時こそ落ち着いた対応をするように心掛けている。	

37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に合わせた声掛けを行い、職員が決めた事を押し付けないようにしている。また、話しやすい雰囲気作りを大切にして、自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけているが、入浴や行事等、職員の都合で決めてしまっている事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服選びはご本人の意思を尊重して選んでいただいております、スカートやお気に入りの衣服等のこだわりは大切にいただき、その人らしさを保てるような手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外出に出かけ、いつもと違う雰囲気の中で普段はあまり食べることのない食事をしたり、育てた野菜を収穫して、しょうやくして頂いたものが食卓にのぼり、畑の話題を楽しみながら食事が出来るなどの雰囲気作りを大切にしている。	朝と昼の食事は事業所での手作りとなっている。菜園で採れた野菜を使ったおかずを前にすると会話が弾んで、利用者が笑顔になっていた。月1回の料理の日は、何を作ろうかと皆で話し合って献立を決めている。外出について職員の中には不安の声もあったが、普段は食欲のない利用者が完食するなど、楽しい時間を過ごす事ができ、職員は自信を持つことができた。次回の外出計画も進んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに適した食事量を把握して、個々に合った食事形態でお出しすることによって食べる楽しみ、喜びなど、おいしく摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた方法で口腔ケアの誘導をさせて頂き、できないところはお手伝いし、口腔内の清潔が保たれるよう支援している。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンやサインを全職員が把握し、羞恥心への配慮をしながらトイレでの排泄を大切にしている。	1人ひとりの排泄パターンを把握し、様子を察知してトイレに誘導している。本人の羞恥心に配慮し、できるだけ排泄の失敗が無いように心掛けている。金銭的な負担を減らす為、パットや紙パンツは利用者にあった物を選択し、無駄がないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料、牛乳、果物など個々に応じた工夫をしながら、水分摂取を促している。また、廊下やテラスの歩行や、リハビリ体操等で身体を動かすことの大切さも意識するようになっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分を重視しながら、職員と1対1でかかわれるゆったりとした楽しい時間になるように配慮している。	基本的に週3回入浴できるよう支援している。利用者の身体状況に応じて職員が2人対応で入浴介助をしているので安心感がある。ゆっくりと時間を取り、利用者のペースで入浴できるように配慮している。希望があれば毎日の入浴にも対応している。夜間入浴は、人員配置の都合が付けば実施したことがある。利用者から希望があれば同性介助を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え午睡の必要な方や、就寝時間の遅い方など個々に応じた対応を行い、眠れない入居者については、ご本人の状態や環境面等を総合的に考えて、調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能の説明書を個々のファイルに保管し、全職員が分かるように徹底している。また、服薬介助時には薬の袋に明記している名前・日付などを読み上げ誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の楽しみや、得意なことで力を発揮して頂き、その方らしい姿が見られる場面作りを心がけている。生け花や、畑仕事など経験や知恵を発揮していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	嗜好品の買い物に近所のスーパーまで出かけたり、気分転換に通りまで散歩に出かけたり支援は行っているが、出来るだけ特定の入居者に偏らないよう配慮している。	利用者がしたいこと、してきたことは、出来るだけ続けてもらいたいと考え、利用者自身のおやつ等の買物に、職員と一緒にでかけ、気分転換を図っている。日頃から畑で収穫したり、近隣を散歩したりするなど、外気を感じてもらっている。外出行事として花見や初詣、ドライブ、夕食などを実施している。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力のもと、お財布を持っておられる入居者もおり、希望に応じて買い物に行き、支払いをして頂いたり、パン屋さんの訪問販売で購入をして頂いたり社会性の維持につなげている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や、手紙のやり取りをされている方もおられ、年賀状をだしていただく支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な広さのホールでゆったりと落ち着いた空間で、ホールや玄関には園庭の季節の花を生けて楽しんで頂けるように配慮している。トイレやゴミ等の不快な匂いに気を配っている。	庭に咲く草花をリビングのテーブルに飾り、花の名前や色などについて利用者同士で話が弾んでいる。天井が高く、吹き抜けやウッドデッキが空間をより広く感じさせている。また、広い庭や畑も特徴である。壁に貼られた利用者の書や格言が職員手作りの表装で温かみが増し、家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、椅子を配置して、仲の良い入居者同士や、気分によって1人でくつろげるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人の写真や思い出の品を持ち込まれ、安心感のある馴染みの環境となるようにご家族にも協力をお願いしている。	居室の入り口には自分の居室が分かるように、くまのぬいぐるみや飾りなど目印をぶらさげている。ベッド柵に身体が挟まれたりしないように職員手作りの布カバーがかけられており、利用者の安全を考える職員の思いが感じられた。写真やテレビ、ぬいぐるみ、仏壇など、自宅から持参され、利用者の希望に合わせたレイアウトになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の力で安全に移動ができるようにホールの席の配置を考えたり、身体状況に合わせた環境づくりを行っている。		